

# アカコッコ保護 事業報告書 2023



## アカコッコの島 復活大作戦

アカコッコが三宅島の森の環境を採餌などでより利用しやすくなるように、下草を取り払う作業を島の人達と協力して実施しました。林床を埋め尽くすように伸びるツタを引っ張っては抜くことを繰り返し、落ち葉が見えるようになりました。抜いたツタはいくつかの場所にまとめて置き、虫たちやミミズが暮らす場所を作りました。

3月16日、五代目江戸家猫八さんをお迎えして動物のものまねと生き物の講演をしていただき、合わせて当会からアカコッコを取り巻く状況と2日目に行う森づくり活動の説明をしました。翌17日は、当日受付、

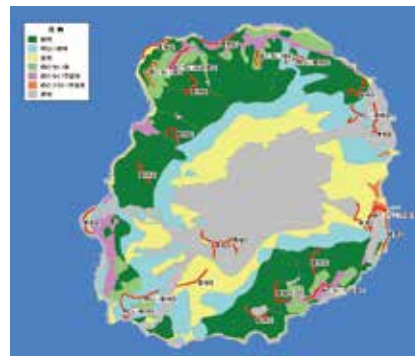
参加時間自由という形で下草を除去する活動を行いました。年配の方から子供までこれまでで最も多い30名の方にご参加いただき、楽しくアカコッコの工サ場整備を行うことができました。



## アカコッコの個体数推定を実施

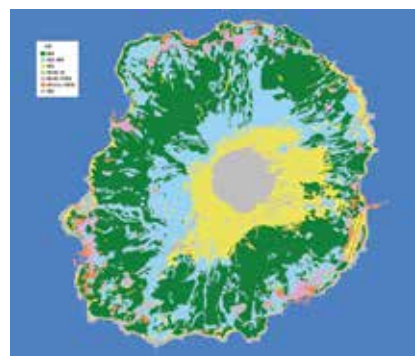
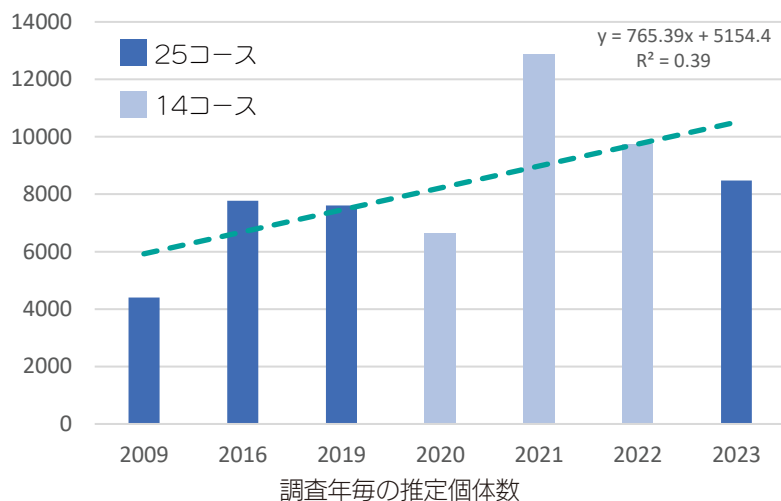
三宅島全体の個体数は、調査範囲内でさえずっているアカコッコを数えた結果を使って推定しています。今年度は4年ぶりに25コース全てで調査を行いました。調査は島民他15名、当会職員8名（延べ46名）で分担して行いました。推定個体数は約8,500羽、前年に比べて少なくなりましたが、回帰直線では正の相関がみられ、やや増加傾向だと言えます。

今回の推定にあたって衛星写真などから新しい環境区分図を作成しました。図を見ても灰色の裸地が減少し、植生が回復してきている様子がわかります。環境の変化とアカコッコの個体数変化の様子を引き続き見守っていきたいと思います。



2009年の環境区分図  
灰色の裸地と黄色の草地の面積が大きい

推定個体数（羽）



2023年の環境区分図  
緑色の樹林が増加している

## アカコッコ館 30年記念シンポジウムで講演

3月10日、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館の開館30周年を記念したシンポジウムが開催されました（参加者30名）。「知ろう守ろうアカコッコと三宅島の自然」というテーマで、東邦大学名誉教授 長谷川雅美氏からは「トカゲの楽園三宅島」、国立科学博物館 西海功氏からは「最も急速に種分化した日本固有種の鳥アカコッコの系統と分類」という、とても興味深いお話をいただきました。当会からは、島内で続けているアカコッコの保護活動について、調査結果の最新情報や島の方などと進める環境整備活動について、自然保護室長 田尻浩伸からデータや写真を使って紹介しました。



講演者全員が壇上に上がり、参加者からの質問などに答えました